

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人国際共立学園

学校関係者評価委員会

委員長 阿部 浩

議事録作成者 福島

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和 7 年 5 月 23 日 18:00~19:30(1 時間半)
場所	新館 3 階 大会議室
出席者	【委員】 阿部 浩(教育機関)、大澤正彦(教育機関)、竹島 由紀恵(教育機関)(オンライン参加)、 遠藤 友子(業界)、富岡 啓夫(業界)、二本木 修(業界、卒業生、保護者) 欠席：文道 優妃(教育機関)、篠崎 沙織(業界、卒業生) 【教職員】 五十嵐 久乃、工藤 佑輝、高橋 淳実、池田 昌央、嶺 雄太、境田 三友紀 齊藤 彩子、福島 三奈子(事務局)
配布資料	自己評価報告書(事前配布)、基準 8 差替資料、自己点検評価表
学校作成の自己評価報告書に基づき、各委員が事前評価をおこなう。 学校側の自己評価と委員による評価点数に差異がある箇所について、学校側が補足説明をおこない、 その後、質疑応答とした。	

校長	2 月に学校が 70 周年を迎え 5/19 に祝賀会、感謝のつどいをニューオータニで行うことができた。業界、団体、サロンに方など多くの方に支えていただき 70 周年をむかえることができ改めて感謝申し上げる。 今回、委員の改正があり 10 年委員を務めて下さった小林先生がご退任され、新たに阿部委員を委員長に任命する。
阿部委員長	小林先生と学校関係者評価委員の立ち上げから携わってきた。外部の私たちと学校の目線を合わせる会にするため活発な意見交換をしていきたい。
五十嵐	基準 8-28-1 決算確定後記載の箇所について差替資料の説明
福島(事務局)	令和 6 年度自己評価結果を一覧で提示し、本校評価と委員評価の差異がある点を中心に説明をおこなう。 《1》基準 4：資格・免許取得率の向上が図られているか 《2》基準 2：人事・給与に関する制度を整備しているか 《3》基準 3：資格・要件を備えた教員を確保しているか 《4》基準 5：退学率の低減が図られているか 《5》基準 4：卒業生の社会的評価を把握しているか 《6》基準 5：留学生に対する相談体制を整備しているか 《7》基準 5：卒業生への支援体制を整備しているか

学校側説明	<p>《1》 基準 4：資格・免許取得率の向上が図られているか ※投影資料使用</p> <p>【説明者：池田・齊藤】</p> <p>国家試験の合格率は全国平均よりは上回っているが、前年度より下がってしまっている。学科試験対策として、過去問題、対策授業を行い夏頃から取り組んだが、常に合格点に達することができない学生もいた。漢字が読めず問題が理解できない学生に対し個別でも対応をしている。不合格者の中には模擬試験では合格点に常に達していた学生もあり、どのような対策をとっていくべきか苦慮している。</p> <p>実技に気持ちがいかってしまい、学科試験に気持ちを切り替えるのに時間が掛かってしまう。自身ができていないことに気づいていない学生の抽出方法、指導についても苦慮している。</p> <p>【学外委員】学科試験対策は、授業の組み立て方や伝え方に高校でも、工夫をすることが多くある。伝え方によっては理解をさせることができないと感じることもある。今年度から簿記試験もペーパーレスで試験がおこなわれるようになり指導方法を工夫していく必要があると感じている。学校の指導もさまざまな方法を試し、工夫されていると感じている。</p>
学校側説明	<p>《2》 基準 2：人事・給与に関する制度を整備しているか</p> <p>《3》 基準 3：資格・要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>【説明者：五十嵐】</p> <p>人事・給与制度については整備をしているが各科・課・個人により理解が異なり評価や対応に差異が生じている。一致した対応、評価の対策が必要である。資格・要件を備えた教員の確保は人員不足であることは確かである。適正のある、求める人材の確保が難しいのが現状である。</p> <p>【学外委員】サロンではメンター教育を取り入れ新任職員の支援を行っている。</p>
学校側説明	<p>《4》 基準 5：退学率の低減が図られているか ※投影資料使用</p> <p>【説明者：嶺】</p> <p>学校全体の退学率として、前年比横ばいであったが退学者が増加している学科もあった。退学者の傾向として総合型選抜で受験をした学生が多かった。退学理由は修学意欲の低下・生活不適應が前年比2倍となっていた。理由を踏まえスクールカウンセラーの日数を週1回に増やした。プライバシーに配慮し学校アプリからの申込ができるようにした結果、前年比5倍の利用があった。また、入学してからの取り組みを明確にするために、入学前授業等でロードマップを作成し順序だてた進路研究を行えるようにした。</p> <p>【学外委員】スクールカウンセラーの適切な配置やプライバシーを考慮した申込方法等努力していることがうかがえる。現在高校ではスクールカウンセラーに加えスクールソーシャルワーカーといって授業料に関する不安を解消するために、授業料の相談や給付金の申請等に特化した方の支援を受けられるようになっている。</p>
学校側説明	<p>《5》 基準 4：卒業生の社会的評価を把握しているか ※配布資料</p> <p>【説明者：境田】</p> <p>令和7年度6月に70周年記念同窓会を予定している。現在までの卒業生にお知らせを送付し現在300名ほどの出席者を予定しているが、戻りのハガキも多くすべての卒業生の把握は難しいと感じている。今回の同窓会を機に卒業生の動向を確認していきたいと考えている。</p>

	<p>【学外委員】卒業生のコミュニティは各科、学年であると感じている。大同窓会をきっかけにあらたに連絡が取れる卒業生も増えるため、今後活躍している卒業生を展示授業に招くこともできると思う。</p>
学校側説明	<p>《6》基準5：留学生に対する相談体制を整備しているか</p> <p>《7》基準5：卒業生への支援体制を整備しているか</p> <p>【説明者：嶺】</p> <p>現在 BA 科で数名、日本語の理解が難しい学生がいるが授業等にはさほど支障がなく、学生同士コミュニケーションをとり学習意欲も高い。2 年生は就職活動も化粧品会社等を希望しており順調にすすんでいる。</p> <p>卒業生の支援体制は、卒業生向け冊子で案内し着付け教室を令和 7 年度行っている。現在 2 名の受講者がいる。今後、ヘアやメイクの講習会も開催していきたいが需要があるのか逡巡している。</p> <p>【学外委員】高校では外国にルーツを持った生徒が多くおり、今後学校にも進学する可能性があり受け入れ体制を整えておくことに必要性を感じている。</p> <p>【学外委員】技術講習は就職後にサロンでそれぞれ必要な講習を行っている。</p>
事務局	<p>学校側の説明と委員の意見をあわせ自己点検評価と委員の評価の差異を確認し、評価の修正を行った。</p>
次回開催予定	<p>2026 年 2 月 13 日（金）18：00～</p>